

第12回日本在宅看護学会学術集会

日時: 11月19日(土)20日(日)現地・オンライン開催
～11月30日オンデマンド開催

場所: 中野サンプラザ(東京都中野区)

参加申込期間: ～11月26日

参加費: 会員10000円 非会員12000円



学術集会HP

学術集会のコンセプトについて

本学術集会のコンセプトは、「在宅看護のサステナビリティ」です。2025年問題や2040年問題を前にし、社会保障システムそのものの持続可能性が問われています。そして、世界中でSDGs(持続可能な開発目標)に注目が集まっています。

本学術集会では、在宅看護のサステナビリティの課題を7つの視点(社会、経営、制度と財政、地域と暮らし、働き方、教育・研究、在宅看護サービス)で網羅的に把握し、解決策を考えられる企画を立案しました。本学術集会が、皆様にとって、実りあるものとなり、在宅看護が輝き続けていく契機になれば幸いです。

第12回日本在宅看護学会学術集會長 川添高志



現地・オンライン開催される、
企画プログラム(教育講演・パネルディスカッション・シンポジウム)の内容について
ご紹介します！
今回は、企画プログラムが多い学術集会になっております。
地域・在宅看護の人材育成、訪問看護事業所の運営、危機管理、経営などを
テーマにしています。
皆様のご参加をお待ちしております。

教育講演 **質的研究から捉える現象の世界** —看護における質的研究のこれから—

質的研究は、看護職に取り組みやすい方法であり、現場での事象や課題を捉える重要なものである。

本学会誌等において、質的記述的研究論文の投稿が多くみられるが、単にカテゴリーを並べることにとどまり、現象をイーミックに描けていない、基本的な論文の整合性が取れていない等の場合が散見される。その際には、査読者にとっても、査読指標に関する迷いが生じる等、負担が大きくなり、査読者による評価の開きが出るなど問題が生じる。

また、インタビューを通して、療養者・家族、実践者の声や現状を捉え、質的研究にまとめ、それを現場に還元させていくサイクルを高めていくことは、本学会の重要な使命の一つでもある。

これらのことから、教育講演により、参加者に対して、質的研究を看護実践に還元する視点、在宅看護の研究方法を学ぶ機会を提供する。

パネルディスカッション **8050/9060時代に求められる在宅看護**

—複合的な課題を持つ家庭に対して在宅看護は何ができるのか?—

20世紀に急激に人口が増加した我が国は、現在、定常的な人口減少局面に入っています。日本の合計特殊出生率1975年以降、人口置換水準である2.1を定常的に割り込み、2008年に1億2808万4千人でピークを迎えてからは「超」少子高齢化と人口減少が続いています。

戦後の人口増加の時期には、産業・就業・都市・家族・居住構造・地域コミュニティなど、社会構造は激変しました。ライフスタイルや価値観の変化により、高度経済成長期以降、未婚化、晩婚化、晩産化が進行し、その結果、かつてはあまりみられなかった60代(あるいは90代)の親と50代(あるいは60代)の未婚の子という超高齢の核家族世帯が増加し、そうした家庭の多くで現在、介護やひきこもり問題など、複雑化・複合化した生活課題を抱えています。

本パネルディスカッションでは、8050/9060世帯の出現と、その課題を人口構造という視点からマクロ的に捉えたうえで、人口構造の変化に対して戦後の福祉はどう対応してきたのかを俯瞰していきます。そのようなマクロ的な議論を踏まえ、在宅医療・看護・介護・福祉の立場から現在の課題や先駆的な取り組みについて事例報告を行い、今後の社会に求められる在宅看護のあり方について、未来志向の議論を展開していきます。

パネルディスカッション **在宅看護のサステナビリティを高めるためのテクノロジー**

少子高齢多死社会では、需要に対する供給体制の不足がより深刻となります。このような中で、顧客のニーズに応え続けていくためには、業務プロセスの見直しを行い、生産性を高めつつ、継続的にサービスを提供していく必要があります。その手段として、テクノロジーの活用が、昨今あらゆる場面、あらゆる領域で注目されていることは言うまでもありません。供給体制の不足を補完するための業務の効率化というメリットだけでなく、サービスの質の向上への寄与についても大いに期待するところです。

そこで、本パネルディスカッションでは、既にテクノロジーを活用している実践についてご紹介いたします。そして、そのさまざまな経験や実践例から、今後のテクノロジーの活用の在り方や展望についても議論し、在宅看護サービスのサステナビリティについて示唆を得ることを目指したいと思います。

パネルディスカッション 在宅医療の安全と危機管理 —暴言・暴力に立ち向かう事業所の運営—

医療従事者が被害にあう、事件・事故が多発しています。令和年には、熱心な医師が患者家族により殺害される、診療所が放火されるという在宅医療の現場での衝撃的な事件が連続しました。顕在化された事件・事故以外にも、利用者や利用者家族からの暴言や暴力などの行為、執拗な要望や身勝手な解釈での訪問看護事業所へのクレーム、それによる訪問看護事業所の渡り歩きなどが存在していることも事実です。

このような中で、それぞれの事業所・組織・団体が、危機管理を行いながら運営に取り組んでいることでしょう。

本パネルディスカッションでは、在宅医療の安全と危機管理の視点から、暴言・暴力に立ち向かう事業所の運営について示唆を得ることを目的に、法律の視点からの対応・対策、訪問看護事業所の取り組みや課題、行政・都道府県看護協会の取り組み、海外の先進的な取り組みなどを紹介し、今後どのように立ち向かっていくか、議論を深めたいと思います。

パネルディスカッション 在宅看護の事業継続計画（BCP）の重要性と展望

自然災害や感染症、その他事業の継続を脅かす危機的状況の発生に備えて、事業継続計画（BCP）の策定、事業継続マネジメント（BCM）は、経営のサステナビリティを考えるうえでとても重要です。介護・診療報酬の改定で、介護サービス事業所の施設基準にも、BCPの策定が義務化されたこともあり、多くの事業所がBCPの策定に取り組んでいます。

本パネルディスカッションでは、リソースを中心に捉えるBCPの考え方を紹介し、BCP策定に取り組んだ自事業所の工夫や取り組み、様々な自然災害の経験を経て作られ発展したBCP・BCMの実際、平時の繋がりを最大限活かした地域のBCP・BCMの実際などについて紹介いたします。そのうえで、在宅看護における重要性や展望について議論を深めたいと思います。

シンポジウム 訪問看護の質 —評価から質改善へ—

在宅看護サービスのサステナビリティを考える上で、訪問看護サービスの量や質について検討する必要があります。特に在宅看護サービスの質については、何を根拠に質の評価をするべきか、その指標づくり等については繰り返し議論がなされてきました。

本シンポジウムは、訪問看護サービスの質の評価はもちろんのこと、改善、そして向上を実現する多様なアプローチや考えについて紹介いたします。そして、参加者の皆さんと在宅看護サービスの持続可能性を実現するために、質の評価・改善のための一歩を踏み出し、よりよい在宅看護サービスについて考える機会としたいと思います。

シンポジウム 地域包括ケアの進化を目指す働き方のサステナビリティ

在宅看護領域で活躍する看護師を確保し、活用することは、在宅ケアの価値を高め、地域包括ケアの維持と進化を通じて、多くの市民の幸福につながります。また、子育て世代や介護世代などの多様なライフステージの人材や、プラチナナース等の多様な年齢層の人材、ダブルワークや病院からの出向などの様々な形態で働く人材が活躍することで、在宅看護のサステナビリティにもつながります。

そこで、本シンポジウムでは、働き方のサステナビリティをテーマに、経験豊富なプラチナナースを活用するメリット、実践例や、子育て世代が活躍する組織をデザインし、働き続けられる組織づくりの方略、訪問看護出向事業による効果や課題等について紹介したいと思います。そして、参加者の皆さんが自組織の特徴を加味し、多様な人材の活かし方、そのための組織づくりについて考える機会としたいと思います。

シンポジウム **地域の実情や工夫から考える**

— 支え合いながら暮らし続けるための地域のサステナビリティ —

社会保障システムそのものの持続可能性が問われる中、地域の実情に合わせ、自助・互助・共助・公助の活動を上手く活用し、お互いに支え合いながら暮らし続けられる地域づくりをすることが求められています。本シンポジウムでは、過疎地域や離島などで地域住民とともに考えながら活動している看護職から、それぞれの実践例（自助・互助・共助・公助等の活動）を紹介していただきます。活動の中での、工夫やアイデア、継続のための課題についても参加者の皆様と一緒にディスカッションしていきたいと思っております。

シンポジウム **組織戦略から見る経営のサステナビリティ**

このシンポジウムでは、在宅看護の経営について考えていきます。訪問看護事業所では、中・長期的に、地域のニーズと期待に応えつつエッセンシャルワーカーとしてサービスを提供し続けながら事業運営に取り組みなければなりません。

そのため、在宅看護・訪問看護業界や自組織の経営環境を分析しつつ、組織戦略を立て、実行し、継続的に経営、運営をしていくことが必要です。特に、労働集約型産業である訪問看護においては、経営資源である「人的資源」をどう活用し看護サービスを影響していくかは、経営のサステナビリティにとって、一つのキーワードになってくるのではないのでしょうか。

今回は、訪問看護ステーションの大規模運営や、在宅看護人材の採用戦略と実践、育ち続けられる人材育成戦略、訪問看護事業所の事業承継についてそれぞれのシンポジストから紹介していただきます。そして、参加いただく皆様と様々な視点から議論し、自事業所の組織戦略から見る経営のサステナビリティを考え、行動する機会にしたいと思っております。

シンポジウム **在宅看護の実践をサステナブルにする機能強化型訪問看護ステーション**

在宅医療を推進するため、24時間の緊急対応、在宅でのターミナルケア、重症度の高い患者の受け入れや居宅介護支援事業所の設置等の機能の高い訪問看護ステーションの評価、さらなる在宅医療の推進と地域での訪問看護の充実を図ることを目的として2014年の診療報酬改定で、機能強化型訪問看護ステーションは創設されました。

その後、約8年間で、日本全国に機能強化型訪問看護ステーションが認定され、それぞれの地域の課題に対応した役割の発揮やオリジナリティあふれる活動が行われています。

本シンポジウムでは、機能強化型訪問看護ステーションの創設から期待された役割や、制度上の課題や展望について考えていきます。また、それぞれの地域特性や課題を踏まえた上での機能強化型訪問看護ステーションとしての活動を紹介し、参加する皆さんと制度の持続可能性を考え、役割の発揮やその中での課題についても意見交換したいと思っております。

シンポジウム **2022年カリキュラム改定 地域・在宅看護論で何を変えるのか？**

— 「どこを目指して、何を教えるか」「看護基礎教育に何を求めるのか」 —

2022年4月より新カリキュラムがスタートし、地域・在宅看護論の位置づけが専門分野に戻りました。これまでに在宅看護学会学術集会では、看護基礎教育の課題、新カリキュラム移行の意味や運用方法について議論してきました。

今回のシンポジウムでは、在宅看護実践のサステナビリティを念頭に置き、もう一步踏み込み2022年度カリキュラム改正以降、地域・在宅看護論で何を変え、どこを目指して、何を教えるのかなど、看護基礎教育と卒後教育の役割や課題について、多様な立場にあるシンポジストが経験や考えを紹介します。

看護基礎教育機関の教員からは、新カリキュラムに関することや卒後教育に関すること、訪問看護実践者からは、実習生に伝えたいことや新卒看護師の雇用に関することなど、みな教えることを通して気づいたことや考えていることをお話しいただく予定です。

参加する皆様との意見交換を通して、人々のニーズに答えつつける看護人材育成について、ともに学び合いたいと思っております。